

十勝の知見が世界の農業発展に貢献

～市場志向型農業振興(SHEP)遠隔研修～

【研修概要】

本研修は、講義及び動画視聴(ビデオ教材)を通して日本の農業普及／営農指導体制、市場流通システムを学び、さらに、ケニアで実践され成果を挙げている小規模農家が作物を「作ってから売る」のではなく「売のために作る」という手法や考え方(SHEP*アプローチ)について理解を深めることを目的としています。

十勝の農家・営農指導者・市場関係者・小売業者などのみなさんに、日頃どうしているのか、どういう協力関係にあるのかについて講義(事前に撮影にご協力いただいた講義動画を使用)していただき、研修員からの質問に答えていただきます。

研修員は、十勝で実践されている営農指導や協力関係などを学び参考とし、研修中に学んだことを落とし込んだアクションプラン(活動計画書)を作成します。このアクションプランに基づいた活動を、研修終了後、各自の国において実践します。

ぜひ取材にいらして下さい。

*SHEP: Smallholder Horticulture Empowerment Project

SHEP アプローチは 2006 年にケニア農業省と JICA の技術協力から生まれました。農家の主体性を最大限引き出すため、①農家が目的と成功体験をイメージし、②農家によるマーケット調査を通して市場の価値を知った上で、③農家が自ら決断を下して栽培カレンダーを作成し、④選定した作物の栽培技術を習得する、という4つのプロセスを遵守してきました。これにより、女性農家を含む小規模農家のエンパワメントと農業所得の増加に大きく貢献しました。コンセプトは、経済学と心理学のハイブリット。「ビジネスとしての農業の推進」、「人が育ち、人が動くためのデザインと仕掛け」の2つの要素から成っています。

現在までに、アフリカ 24 カ国で SHEP が展開され、9800 人の技術指導者と 11 万人の小規模農家が育成されたことを確認しています。

JICA は、TICAD VII で、2030 年までに少なくとも 100 万人の小規模農家がより良い暮らしを実現できるよう取り組むことを宣言しています。

今では、アフリカを超えてアジアや中南米でも、SHEP が既存の農業普及システムに導入され始めています。

【研修期間】

- 7月12～16日(遠隔研修) 12:30～16:00(日本時間)
- 7月19～23日(現地調査)
- 7月26～30日(遠隔研修) 12:30～16:00(日本時間)

【研修場所】

- 北海道帯広市西6条南6丁目3番地 ソネビル 3F 第3会議室

【コースリーダー】

- JICA 国際協力専門員 相川 次郎 (SHEP 研修起案者)

【研修にご協力いただく地元の方々】(講義日)

- フードバレーとかち推進協議会 事務局主査 中村 久哉様、書記 浜田 潤一様(7/13)
- 木野農業協同組合 常務理事 大西 勉様(7/14)
- 辻野農園 代表 辻野 宏明様(7/14)
- 有限会社やまき大木ストア 代表取締役社長 大木 健司様(7/14)
- タイ料理中国料理 潮華 オーナーシェフ 早坂 信美様、店長 早坂 仁美様(7/14)
- 夢想農園 副代表 堀田 悠希様(7/15)
- 北海道十勝総合振興局産業振興部十勝農業改良普及センター十勝北部支所 支所長 中村 浩様(7/27)

※取材をご希望の場合は、事前に下記までご連絡下さい。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 北海道センター（帯広）道東業務課 上米良
TEL 0155-35-1210 e-mail : kanmera.takahiro@jica.go.jp